

労働安全確立、林業労働力の確保など求める

～2023森林労連中央行動～

林野労組九州

発行所
熊本市西区京町本丁2の7
全国林野関連労働組合
九州地方本部
電話 096-354-1150

発行責任者 歌野国光
発行日 10日
定価 1部20円
組合員の購読料は
組合費の中に含む

緑を育て、守る、 林野労組

当面の行動

- 7月8日 共済理事会
- 7月18日 執行委員会
- 7月21日 分会代表者会議、第19回地本定期大会 (玉名市、22日)
- 7月22日 第18回青年女性委員会委員長会議 (熊本市、23日)
- 7月26日 執行委員会
- 7月28日 全国共済理事会、全国代表者会議、林野会館評議員会 (東京都)
- 7月29日 第19回定期全国大会 (東京都)
- 7月30日 森林労連共済総代会、第34回森林労連全国大会 (東京都)



あいさつする福島参議院議員

6月11日～12日、2023森林労連中央行動が東京都・林野会館外で開催され、地方から47名が参加、九州森林労連から11名(直加盟労組1名、全山労8名、林野労組2名)が参加しました。

第1日目は林野会館において結団式が行われ、冒頭、中村森林労連中央執行委員長より、「森林・林業基本計画に基づく具体的施策の推進に向け、中央では政党及び関係団体等への要請行動や、林野庁並びに厚生労働省交渉等への取組を進めていくところ。地方においても、地方自治体、林野地方協議等への取組強化に加え、取り巻く課題に対して、森林労連として声を上げていく必要がある」と挨拶。また、逢坂誠二衆議院議員(立憲民主党)、福島みずほ参議院議員(社会民主党)の挨拶を受け、鳴川森林労連書記長より、情勢と課題の提起があり、翌日の交渉に向け意思統一が図られました。

2日目、衆議院第2議員会館において、厚生労働省・林野庁に対し要請書を手交し、交渉へスライド。

厚生労働省に対しては、「林業における労働行政」、「労働安全衛生対策」、「振動障害防止対策、振動病対策」また、林野庁に対しては、「森林・林業基本計画及び森林吸収源対策推進に係る予算確保」、「森林環境譲与税の譲与基準の見直し」、「再造林課題として苗木の安定供給体制の確立、地帯単価の



林野庁へ要請書を手交する中村森林労連中央執行委員長



作業工程の導入を(九州・堀之内)

見直し」等について、全国より要求を行いました。

また、九州直加盟(大口素生協労働組合・堀之内氏)からも、現場実態を交えながら、一貫作業における地帯工程の導入を求めました。

厚労省・林野庁からは、「林業労働者の処遇改善について、労働法の基本方針において重要だと認識している」、「確実な再造林のため、苗木の確保は最も重要。情報収集及び種苗組合等を活用した獣害対策を検討して

たくさんのお米が届けられるよう思いを込めて

食とみどり水を守る鹿児島県民の会 アジア・アフリカ支援米田植え

「諫山通信員、鹿児島分会」

6月17日始良市蒲生町において、食とみどり水を守る鹿児島県民の会主催によるアジア・アフリカ支援米の田植えが開催され総勢約30名、鹿児島分会からは、西上、牧島、諫山、鳥居の若手精鋭4名と大人1名、子供3名の計8名で参加しました。

当日は、ときより小雨もぱらつく絶好の田植え日和に恵まれ、冒頭主催者を代表し、

全農林間屋委員長より「昨年はコロナの影響で稲刈りのみの作業でしたが今年、コロナの5類移行により4年ぶりの田植えとなりました。今年もたくさんのお米がマリ共和国へ届けられるよう、よろしく願います」と挨拶がありました。

西上、牧島の二人は、初めての田植え体験と言う事で前から興奮気味で鼻息も荒く、現地に着くと共に参加した子

供達と田植え開始前からあぜ道、水路などを散策し泥遊び、虫探しに興じ開始前から普段感じることの出来ない自然と一心不乱に戯れていました。

また田植えが始まると若手4人は列の中央を陣取り足下が悪い中悪戦苦闘していましたが、持ち前の若さとやる気で徐々に要領をつかみ、泥まみれになることなく無事に作業を終了しました。秋には、稲刈りも予定されており参加者一同稲刈りでの再会を誓い、無事に作業を終了しました。



みんなで頑張りました!

匠の腕

「ミンナ ココ ニクル ～道の駅都城リニューアル～」

(撮影者 齋藤哲哉：都城分会)



「匠の一言」
都城にお越しの際はココ ニクル?



すでにあの耳障りなセミの大合唱が始まった。ムシムシした暑い夏がすぐそこに近づいている。▼まだ終

わりそうにないジメジメした梅雨の真っ只中、湿気は嫌だが雨の匂いが好きという人も中にはいるのではないだろうか。降り始めの雨の匂いは「ベトリコール」と呼ばれ、ギリシャ語で「石のエッセンス」を意味する。特定の植物から発生する油が、土や石に附着しており、雨に当たった瞬間に粒子となって舞い上がることで独特の匂いがあるのだそう。▼楽しむくらいは少な雨ならいいが、降りすぎると警戒が必要だ。熊本県南を中心とする犠牲者を出した熊本豪雨から3年。近年、この時期の集中豪雨が増え、各地に大きな災害をもたらしている。▼いつ、どこで起こるか分からない災害。「自分は大丈夫」「うちの家は大丈夫」でなく、日頃から自分事として備える習慣をつけたい。

(NIKU)

第19回林野労組定期全国大会

代議員の決意表明

第19回林野労組定期全国大会が、7月29日、東京都内の連合会館において開催されます。

九州地本選挙管理委員会では、6月15日代議員選挙を公示しました。各立候補者から、決意表明が寄せられましたので掲載をします。

なお、全国大会代議員は、全区4名、地区1名(宮崎ブロック)の計5名となっています。



古村健児(局)

近年、森林の公益的機能を十分に発揮させることや林業の成長産業化、林地保全の対策など、国の政策に対する国有林として



松本慎剛(局)

国有林野事業は一般会計に移行し11年目を迎えました。この間、私たちの職場では、要員不

の役割が多様化し期待が大きなものとなっています。

一方で、国民の期待に応えるための重要な職場状況は、業務量が増加し、職員は減少の一途を辿っています。限られた要員での業務遂行を行わざるを得ない状況となっています。さらに、増額している累積債務返済問題をはじめ現場管理機能への不安など、多くの組合員から将来に対する不安や不満の声が挙げられている状況です。

こうした組合員の声を基に、

足らざる業務運営問題、国有林へコンセンション方式を導入することが狙いの規制緩和問題、賃金をはじめとする労働諸条件の改善といった、各種問題の対策が求められています。これら先の険しい課題について、運動展開の方向性を確認し、解消へ向け更なる組織体制の強化が図れるよう、本大会の討論に参加したいと思えます。



健全な要員関連課題の改善や労働条件諸課題の改善などに向けた取り組みが前進するよう全国大会の議論に参加します。



加藤吉征(局)

国有林野事業の一般会計移行から丸10年が経過しました。この間、林野労組が抱える課題に対し取組を進める中において、一部で成果はあるものの、依然として課題は山積している状況にあります。

特に、要員・空席ポスト問題、現場管理機能の確保、業務量の増加等に対して、職場からは不安や不満の声が多く挙げられており、継続した取組が必要となっています。

こうした諸課題に対する今後



中川秀樹(局)

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に緩和され、ようやく元の姿に戻りつつある現状で



全区4名
地区1名



出田正哲(宮崎南支部)

の闘いの方針確立や運動の前進を図るため、全国大会の討論に参加します。

林野労組結成の際、当時青年女性委員で大会運営委員として参加した以来の全国大会となります。林野労組が結成されてか

実態の共有と交流を深め女性活動のさらなる前進に向けて

～2023九州地本女性集会～

2023年6月10日、熊本県入吉市(入吉クラフトパーク)において6年ぶりとなる「2023九州地本女性集会」を開催しました。子供同伴での参加可ということもあり、総勢40名が参加しました。

初めに平生地本青年女性委員長から挨拶があり、その後、来賓の古村地本副委員長より激励の言葉をいただきました。

まず、体験学習では「たたら作り」でコップを作製しました。女性の参加者は各テーブルに分かれ、歓談をしながら粘土でコップを作り、それぞれ思い思いに丁寧に飾り付けを行いました。お子さんも一緒に作製し、



たたら作り体験で交流する参加者

とても喜んでいました。焼き上がりまでに約2か月かかるようなので完成品が手元に届くまで楽しみに待ちたいと思います。その後は分設会を行い、分設会間でお互いの各職場や子育てに関する日々の生活の中における様々な意見が多く出され、女性委員同士で共感できるものとなりました。

今後、出された意見をもとに常任部でも討論し、青年女性委員会全体で共有を図り、大衆諸行動において署長等意見や総務企画部長等意見へと繋げていきたいと思えます。

分設会後は、場所を移し懇親会を行い、久しぶりに会う仲間と声高らかに語り合い交流を深めました。



総勢40名が参加した女性集会

あの人とあの人

「虫取り王に俺はなる!!」

石川 大智さん(西都児湯分会)



どこまでも飛び回ります!!

4月に転勤してきた西都児湯分会の「フアール」石川大智君を紹介いたします。

石川君は、平成9年生まれの26歳で出身は新潟県です。日頃から明るく元気で何事にも物怖じせず、仕事に取り組みます。

前署の福岡署では、森林育成業務に従事していましたが、西都児湯署では、土木の係員として直属の上司の右腕となりテキパキと仕事をこなしています。

そんな石川君のプライベートは、趣味に特化しており、休日になるとカミキリミシ採取に野山を駆け回り、「日本にいる全種類を捕まえた」と仕事をしている時には見せない少年のような笑顔で野望を語ります。

林野事業の推進に向けた討論に参加したいと考えています。



を語ってくれます。

また、捕まえたカミキリミシは、大事に標本にしていて、保管場所が生活スペースを占領しているそうです。

カミキリミシへの情熱から大隅方面へ足を運んだり、休暇を利用し沖繩へひとつ飛びし、昼間は虫取り網で、夜はライトトラップ採取に明け暮れ、時には車中泊もあるようです。(筆者はライトトラップに弱いですが)

何にでも前向きに取り組む姿勢や、話しかけやすい穏やかな性格で上司や同僚から親しまれている石川君。今後も職場の中心人物として組合や業務に取り組みしてほしいです。(本誌通信員・西都児湯分会)